

- 1 主題名 みんながにこにこ
 内容項目 4－(1) 公德心、規則の尊重
 (C－10 規則の尊重)
 資料名 「みんなのこうえん」(学研『みんなのどうとく1ねん』)

2 主題設定の理由

(1) 主題について

本主題は、学習指導要領の内容4－(1)「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に使う。」を受けて設定している。第3・4学年では、社会生活の中で守るべき道徳としての公德を大切に使う態度にまで広げ、第5学年及び第6学年では、「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら義務を果たす。」と遵法の精神まで高めることに発展し、規範意識の育成に重要な内容項目である。公德心は、社会生活の中で守るべきモラルを尊重する精神と考える。

現行4－(1)の内容項目は、27年7月に発表された学習指導要領解説では、「C-10 規則の尊重」のキーワードで「生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関する」と示された。主体性をもってきまりや規則を守ることを重視して、第3・4学年では「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守る」に、第5・6学年では「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り」に改められた。

今回、道徳教育の改善に関する一連の動向の発端となったのは、いじめの問題への対応である。しかし、社会の抱える様々な問題の中で、尊い命が失われるような痛ましい出来事が発生し、道徳教育の在り方が大きく問われる時期にある。改正学習指導要領で、道徳教育の要となる道徳科は「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と示された。改正学習指導要領の趣旨を踏まえ、集団や社会の中での約束やきまりの意義を理解し、大切にしようとする意識を育てていくことが求められる。

入学して間もない1年生は、学校生活が新鮮であり、様々な約束事も喜んで受け入れている。これまでに学校探検や校外学習、運動会等の行事の時に、きまりについて考える機会を持つようにしてきた。周囲の大人や上級生の教えを守り、それを行動に移そうと努力している。しかし、自分の興味や状況によって、周囲の様子を考えずにきまりが守れない場面が見られる。本学級は、少人数であるため、約束やきまりを守れないことがあっても、学級生活は成り立っていくこともある。約束やきまりはなぜ守らなければならないか考えさせ、他者からの外的な力によって強要されるのではなく、一人一人が大切さを自覚して守るようにしていきたい。

本校では、きまりを「豊栄小のよい子の一日」として明文化し、守るべき事として共通理解を図っている。子どもたちの行動を制限するきまりは、どこの学校でも共通すると推察される。一日の生活の中で、授業中の約束、給食の配膳のしかた、図書室の使い方、休み時間の遊び等、多くのきまりが存在する。子どもたちは時間枠の中で器用に使い分けるが、時として守れないこともあり、約束事を破った時にさほど罪悪感を感じられない。しかし、きまりを破る行動によって、周囲には困ったり、傷ついたりする人が存在する。きまりは、集団の構成員による公的な約束事であり、それが一般性や罰則をもった法になっていく。きまりによって、自分たちは守られているのだと、必要性に気づかせることが重要となる。また、どんなきまりが必要なのか、自分たちの生活から求められる約束事を自分たちで考えれば、守ろうとする意識も高まると考える。

本実践では公共の場での約束やきまりを守ることによって、人に迷惑をかけないこと、そのことによって自分自身も生活しやすくなることに気づかせたい。「みんなが使う物」とは公共物であり、公共物の使い方として約束やきまりが必要となる。みんなで使う物にはどんな物があるかを明確にし、使い方の約束やきまりがある理由がわかり、大切にしようとする意識を持たせたい。社会の秩序を守るための規則の必要性について認識し、実践しようとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 子どもの実態 (男子5名 女子4名 計9名) 調査日28年5月17日

学校や家庭等、日常生活の中で、よく経験すると思われる34項目について、何をどのくらい悪いと思っているか、「とても悪い」「少し悪い」「あまり悪くない」「全く悪くない」の4つの選択肢を設けて尋ねた。入学して約2か月で、学校のきまりに対して素直に受け入れているため「とても悪い」と感じている項目が多い中、「少し悪い」と数名が回答した項目があった。

少し悪いと感じる児童3名	お金や品物を借りて返さない 友だちの発表したことをからかう
少し悪いと感じる児童4名	決められた時間に家に帰らない 決められた服の着方をしない

「お金や品物を借りて返さない」という社会的な罰則が定められている項目に関して「少し悪い」と感じる児童が3名いる。まだ、具体的な場面が想像できないこと、善悪の判断がはっきりとできていないことが原因と推察される。社会規範として、絶対にやってはいけないことは認識できるようにしたい。

「友達の発表したことをからかう」ような友だちとの関わりに関して「少し悪い」と感じている児童は、他者理解が不十分なことが原因と考えられる。安易なからかいも相手は傷つくことに気づかせていくことが大切である。周囲の友だちを大切にしようとする意識は、きまりを守る基となる。

決められた時間に家に帰らない、決められた服の着方をしない等の約束事に関しては、ゆるやかな見方となり、「少し悪い」と感じる児童が4名である。時間を守ることに關しての意識が薄いことが課題となる。また、服の着方に関しては、運動会での体操服の約束が関係していると推察され、学校生活でのマナーに關して考えさせていく必要がある。

次に、きまりは破ってはいけないのか、きまりがなかったらどうなると思うか、きまりの必要性に關する質問に対する調査結果をまとめる。

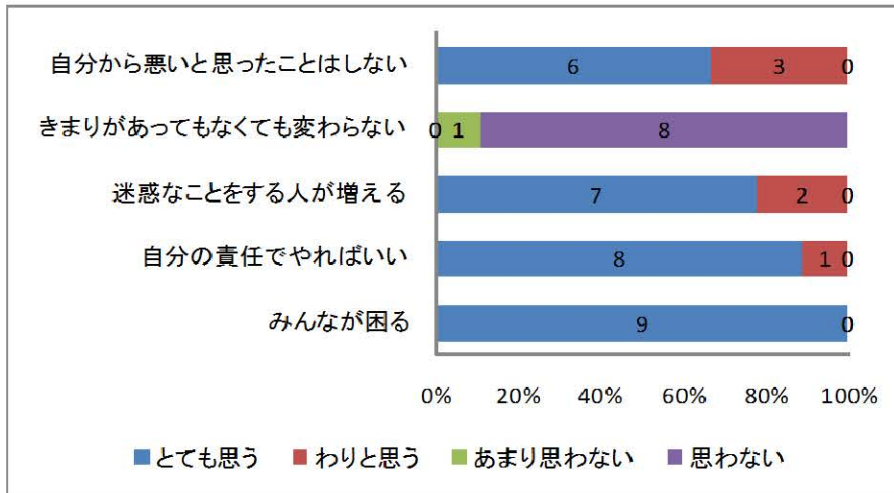


図 1

次に、きまりを破ることに関する意識調査では、「破ってもしかたがない時もある」と7名の児童が肯定的に回答し、状況により許される場合もあるととらえている。「きまりは多すぎても破ってしまう」という項目では、きまりの多さについてはやや抵抗を感じているとかがえる。きまりを破っても自分が困らなければいいと「思わない」児童は7名いる。自己中心的な考えに偏らず、周囲の人の思いを大切にしたいという意識は持っている。

きまりは、みんなが困るからなくさない方がいいと「とても思う」児童が100%である。これは、迷惑な人が増えると思う割合が高いことからもうかがえる。きまりは、自分たちを守っていることに無意識に気づいていると言えよう。

きまりはあってもなくても変わらないかという質問に対しては児童は否定的に回答し、きまりの必要性を感じている。(図1)

きまりになくても、自分から悪いと思ったことはしないと肯定的に回答している。自分で判断し、行動できることが大切になることから、判断の根拠が求められる。

「破ってもしかたがない時もある」と7名の児童が肯定的に回答し、状況により許される場合もあるととらえている。「きまりは多すぎても破ってしまう」という項目では、きまりの多さについてはやや抵抗を感じているとかがえる。きまりを破っても自分が困らなければいいと「思わない」児童は7名いる。自己中心的な考えに偏らず、周囲の人の思いを大切にしたいという意識は持っている。

(図2)

以上の調査結果では、周囲との関係性を大切にしようという意識がうかがえ、児童の肯定的な面が把握できた。しかし、日常生活の観察から、自分の興味・関心が先に立ち、自分勝手な行動をとってしまう時もある。

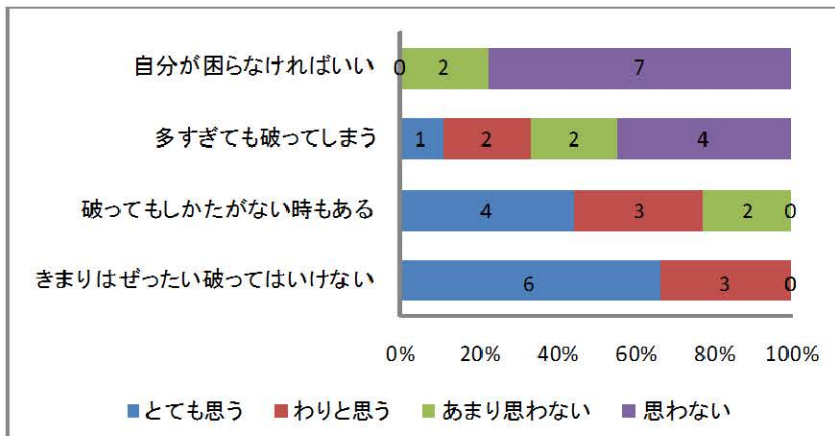


図 2

	知っているきまり	きまりはなぜあるか
A	勝手に物をさわらない。かけない。授業中トイレにいかない。	学校を楽しくするため。
B	廊下を走らない。授業中どこかに行かない。トイレは休み時間。	先生に言われたから。
C	学校の物をさわらない。授業中話さない。さわがない。	人のじゃまをしない。
D	暴れない。食べる時におしゃべりしない。	なかよく元気にすごすため。
E	廊下は走らない。授業中トイレに行かない。	学校を楽しく。命を大切に。
F	廊下で暴れない。がんばって勉強する。	なかよく遊ぶため。
G	先生の話を聞く。廊下を走らない。転ばない。	けがをしないため。
H	学校の物をさわらない。	大きな声を出さない。
I	走らない。はぐれない。勝手にトイレに行かない。	勉強のじゃまをしないため。

図 3

	① みんなで使う物	② みんなで使う 場所	③ 校外学習 で約束を 守れたか	④ 守れなかった わけ	⑤ 守れたきまり	⑥ 学校でき まりを守 っている か	⑦ 学校の外 できまり を守っ ているか
A	遊具 ボール	教室	△	早く滑りたい	時間を守る。 はぐれない。	○	△
B	遊具 絵本 ボール	体育館 教室 校庭	△	一人でくぐり たかった	離れない。ご みの持ち帰り。	◎	◎
C	ボール 遊具 黒 板 ほうき	体育館 教室 トイレ	◎	ちょっと迷子 になった	6年生のいう ことを聞く。	◎	◎
D	遊具 ボール	遊具	◎		バスの中で暴 れない。	○	◎
E	遊具 ボール	遊具	◎		一人でトイレ に行かない。	◎	◎
F	遊具	机 遊具	△	滑り台で遊び たかった	一人で行かな い。	△	◎
G	絵本 遊具	体育館	○	きまりを忘れ た	仲良し班で待 つ。	◎	◎
H	遊具 ボール	遊具	△	おもしろかつ た	お弁当の時も バスの時も	◎	◎
I	遊具	体育館 校庭	△	行きたい方に 行った	アスレチック で遊んだ。	○	△

③⑥⑦ ◎とても守れた ○だいたい守れた △あまり守れない ▲守れない

図4

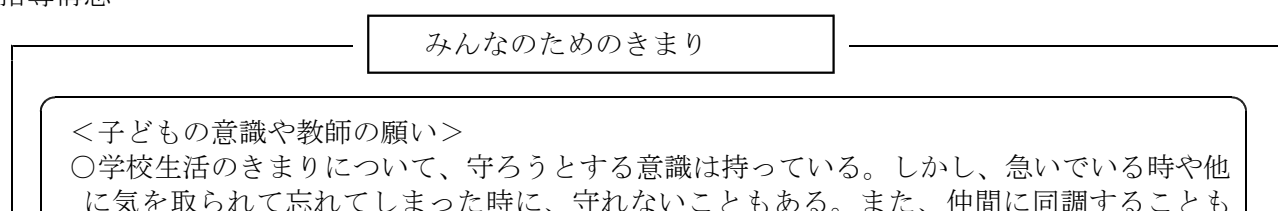
学校のきまりに関しては、多くの約束事がある中で、児童の意識には偏りが見られる。生活科の学校探検が影響していると考えられる。そのきまりがなぜあるか、理由は一人一人が自分なりの言葉で表現していて、集団生活を円滑に営むためのものであることに気づいている。その中で「命を大切にするため」と答えたE児の発言に注目したい。(図3)

児童は、遊具をみんなが使う物として認識している。また、場所としては教室から見える範囲だけに限られていて、社会生活にまで意識が広がっていない。校外学習の様子を写真で紹介し、公共物にはどんな物があるか視野を広げていきたい。それを使うには約束やきまりがあり、そのきまりがあるわけについて考える時間を設けることが大切だと考える。日常生活の中できまりを守っていると意識している児童がほとんどであるが、具体的に校外学習の例を挙げると、5名は縦割り班に迷惑をかける行動をとっていた。(図4) わかっても行動できない人間理解の補助発問を取り入れながら、自分とのかかわりで考えることができるようにしていきたい。

(3) 資料について

本資料は、多くの人が集まり、様々な活動が展開される公園の様子を描いている。楽しそうな人や困っているような人が描かれていて、表情や動きによって状況が把握できる。人のかかわり合いに気づかせていくことが大切である。自分とまわりの人という異なる視点から考えることで、どんなことに気を付ければ気持ちよく過ごすことができるようになるか考えさせたい。公園の全体像を示しながら、よりよい公園にするための方法を考えさせることにより、公共の場で必要な約束やきまりを感じ取らせたい。

3 指導構想



ある。「こうだったから」と慣例として従っていることもあり、なぜきまりがあるのか、その根底を支えている意味について気づかせたい。

事前

生活「がっこうとともだち」

学校全体をまわり、その場の特徴ある物を見つけたり、体験したり、関係ある人に話を聞いたりする。

*学校内の場所ごとのルールを守って行動したり、礼儀正しく話したりしながら部屋にあるものやいる人、部屋の目的などを調べ、場所ごとのマナーに気づく。

体育「かけっこ」

グループで協力していろいろなコースを走って楽しむ。

*競争の仕方、マナーについて知り、順番を守って仲良く走ろうとする。

道徳「にゃんたとひかるこいし」1-(3) 勇気

よいことと悪いことの区別をして、よいと思うことは勇気を出して行おうとする心情を育てる。

本時

道徳「みんなのこうえん」4-(1) 公德心、規則の尊重

事後

国語「わけをはなそう」

顔の表情と出来事から女の子の気持ちやそのわけを考える。

*言葉には気持ちを伝える働きがあることに気づいて、自分の気持ちを話そうとする。

生活「さあ！みんなででかけよう」

安全に気を付けて遊び場や野原に出かけていき、みんなで遊びながら、人や自然とふれあうことができる。

*遊び場のルールやマナーを守って利用することが大切であるということを考え、楽しく遊ぶことができる。

4 本時の指導

(1) ねらい

みんなが使う公共の場で、すべての人が気持ちよく活動できるよう、公共の場で必要とされる約束やきまりを守ろうとする態度を育てる。

(2) 展開

学習活動と内容	時配 形態	指導上の留意点		資料教具
		◎評価	※手立て	
1 生活の中で、みんなで使う場所には、どのような所があるかをお互いに聞き合う。 ・教室 ・校庭 ・図書室 ・体育館 ・公園 ・駅 ・道路 ・手洗い場 ・トイレ	5分 一斉	・学校生活だけでなく、社会生活の中でみんなで使う場所を全員が簡単に紹介できるように助言する。 ・全員が発表できるようにするが、あまり気づかない場合、校外学習の写真を提示し、多くの人が過ごす場所への関心を高めるようにする。		ノートパソコン 大型テレビ
2 資料「みんなのこうえん」を見て、考えたことについて	7分 一斉	・資料を拡大して黒板の中心に掲示して関心を高め、公園の全体像がつかめるようにす		場面絵

<p>話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> みんながたのしいこうえんのやくそく </div>		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと対話をしながら、誰もが状況を理解できるようにする。 いろいろな表情の人がいることに気づかせみんなが楽しく過ごせるように考えることを確認する。 楽しく過ごしている人を発表したら、黒板の絵に同じ色の磁石を置き、視覚に訴えながら確認していく。 	
<p>○公園で、どの人が楽しく気持ちよく過ごしているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんとお母さん 赤ちゃんを見ているおばあちゃんとおじいちゃん おかさんと小さい子 砂場で遊んでいる子 	3分 個別	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの絵から、気持ちよく過ごしていない人を見つけて困むように助言する。 	磁石 ワークシート
<p>◎みんなが楽しく、気持ちよく過ごすには、どうしたらいいでしょう。</p> <p>○こまっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ベンチに乗っているから汚れる。 ぶらんこを順番に乗らない。 滑り台を反対に上ってきて危ない。 ごみを落としている。 	5分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく過ごしている人とは異なる色の磁石を置いて、気持ちよく過ごせていない人を発表し、視覚に訴えながら確認していく。 気持ちよく過ごせない理由も発表するように助言する。 	磁石
<p>○これからどうしたらいいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブランコは並んで乗ろう。 ブランコは大切に乗りもりたい。 順番に並んで乗ろう。 ベンチにくつで乗ったら座るときにいやだな。 ベンチは、乗ってほしくない。 楽しくてくつで上がってしまったからあやまろう。 	7分 グループ	<ul style="list-style-type: none"> グループでどの場面を演じるか相談し、確認した後にワークシートに困っていることこれからどうしたらよいかを書くように助言する。 ※立場を考えて書くことに抵抗のあるD児やH児は、場面の状況を助言し、グループの友だちと相談するように支援する。 一人一人が自分の考えを持ち、書くことが望ましいが、まだ文字を習得できていない児童がいるため、グループで教え合いながら書くように助言する。 ※A児が、登場人物の気持ちをワークシートに書いた後、グループ内で他の友だちと相談することができるように励ます。 	
<ul style="list-style-type: none"> 滑り台を反対から上ってきたらあぶないな。 滑り台は、くつで上らないでほしい。 今度から順番に並ぼう。 お菓子を食べたらゴミ箱に捨てよう。 食べ物はずわって食べよう。 	10分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> どの場面を演じるか確認した後、登場人物になりきることができるように支援し、3人グループで発表させる。 自分の考えとどこが違うか比べながら、友だちの意見を共感的に聞けるよう助言する。 重なって発表してもよいとするが、他の場面を演じることも助言する。 公共物の立場からも状況を考えさせ、きまりを守ることはみんなですべて大切にすることに気づかせるように助言する。 役割演技を見て、夢中で遊んでしまいわかっていてもできない状況があることに気づかせ、人間理解の補助発問を取り入れる。 様々な視点から考えることにより、きまりを守ることは自分のためでもあることに気づかせるように助言する。 これから大切にしたいことを児童の発言から全体で確認する。 	ネームカード

<p>3 今までに、きまりを守ろうと努力した経験、できなかった経験を振り返る。</p>	<p>5分 個別</p>	<p>◎登場人物の気持ちになって、問題を解決する方法を考えることができる。 (ワークシート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに本時の学習で何が大切かわかったことを書き、自分の経験を想起できるように助言する。 <p>◎本時の授業を振り返ってワークシートに自己評価し、考えたことを書くことができたか。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返るときに抵抗のある場合、わたしたちの道徳の「やくそくやきまりをまもって」のページを活用して、学校や地域での様々な場面に気づくように助言する。 	<p>ワークシート</p> <p>わたしたちの道徳</p>
<p>4 茂原公園の写真を見て、今後の公共物の使い方を考える。</p>	<p>3分 一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題と実践への意欲を持つことができるようにする。 	<p>ノートパソコン 大型テレビ</p>


(3) 板書計画

これからどうしたらいいか

- ・じゅんばんにならぼう。
- ・だいじにつかおう。
- ・よごさないようにしましょう。

じゅんばんにならんでほしい。

べんちがよごれる。



うえからすべらないと、あぶない。

みんなのこうえん

たのしい、きもちよいひと

こまっているひと

⇔